

稲畑産業

稲畑産業は、2017年度から20年度を最終年度とする4力年の中期経営計画を開始した。計画

では、現在主力の情報電子および合成樹脂の両事業への集中から転換、2事業を強化しながら生活産業事業など他のセグメントの拡大も押し進めていく。

同社の16年度の業績は売上高と営業利益、経常利益、純利益が過去最高

となった。同年度を最終年度とする3力年中計で策定した目標に対して

生活産業事業など拡大へ

は、為替の影響もあり売上高が未達だったが、営業利益、経常利益は目標値をクリアしている。同

年度にはフランスの医薬中間体製造子会社のリストラが完了、さらに欧州

域で太陽電池関連部材の販売が好転した。

このほどスタートした新中計では、10〜15年後のセグメントの売上げ比率について、情報電子と合成樹脂で総売上高のお

よそ8割を占める現在の状況からの転換を目指す。

情報電子事業では、偏光板などFPD関連材料への取り組みを堅持。さらにインクジェット関連

製品と、太陽電池関連部材など新エネルギー関連材料の販売を強化していく。また合成樹脂事業では、売上げの約6割を占める海外市場での展開を強化し、メキシコなど

北米地域で自動車分野を伸ばしていく。

化学品事業は、積水化学工業とともに株式を取得したポリマテック・ジヤパンが製造する放熱材料など自動車用材料を拡

販する。生活産業事業では、食品事業でおよそ9割を占める輸入事業を転換。国内で農業事業の基盤強化を図る。住環境事業は国内で収益を生む体質づくりが進んでいることから、今後は海外市場の開拓を実施、住宅周りにこだわらない広範な製品の販売に取り組んでいく。